

佳作

「れいじのだいすきなママへ」

茨城県 水戸市立寿小学校 一年

原口 れいじ

ぼくは、しょうがくせいになっても、すごいママっこでみんなにわらわれます。ママがといれにいつても、

「ママ、ママ。」

おぶろにはいつていても、

「ママ、ママ。」

ばばには、いつも

「れいじ、もうしょうがくせいなんだから、

いつも、ママ、ママ、いわないの。」

と、いわれます。それをまねして、いもうこのゆづきにもおなじことをいわれます。それでもぼくは、ママがだいすきだから、きにしないで、

「ママ、ママ。」

といっています。でも、たまには、ぼくもおともだちとあそんでいるときは、すこしはすかしいからママっこをいんたいしようかなと、すこしだけかんがえることもあります。

このあいだ、ばばに

「ママ、ママいつてたらママだつてたいへんでしょう。すこしでもじぶんのことをやればママだつて、らくなんだよ。」

と、いわれました。ぼくは、ばばがいつていることは、ただしいな、とおもいままに、

「こんどから、あんまりママ、ママつていわないね。」

と、いいました。ママに

「なんで。」

と、いわれたので、ばばにいわれたことをはなすと、ママに

「べつにれいじがママ、ママ、いつたつてママは、たいへんじゃないよ。だいすきなれいじのことをいろいろやってあげるのは、ほんたいにうれしいよ。おとなになればじぶんのことをやらなきゃいけないんだからいまは、いっぱいママにあまえていいんだよ。」と、いわれました。

ぼくは、ママのことばをきいてうれしいきもちになりました。ぼくはおとなになるまでまだまだじかんがあるからこれからもいままでみたいにママっこでいたいです。

だいすきなママいつもありがとうございます。ママのこともでよかったですよ。